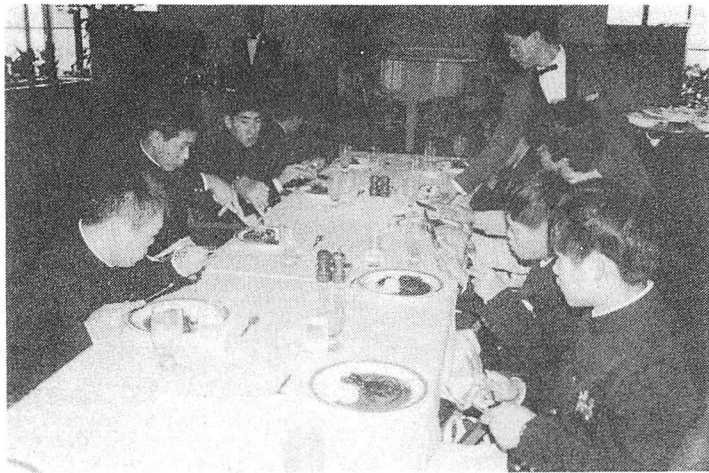


高等部の実践



目 次

I	基本的な考え方	71
II	実践1 「臨海学級」の指導を通して	74
III	実践2 「職場の生活」の実践授業を通して	88
IV	まとめ	100

見通しをもち、すすんで活動する生徒を 育成するにはどうすればよいか

I 基本的な考え方

1 高等部教育のねらい

教育の究極の目的は、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成にある。知的発達に遅れがあり、社会生活への適応が難しい精神遅滞児にとっても、将来の家庭生活や社会生活において自分の力を精いっぱい発揮して、人間らしく生きていく能力を養っていかねばならない。とりわけ、社会生活への参加を目前にした高等部の生徒の教育にあっては一人ひとりの将来の生活を想定して、家庭や職場、施設といった社会生活への自立をめざしていく必要がある。

このような考えのもとに、高等部としての教育目標を「心身の調和的発達を図るとともに、家庭生活や社会生活に必要な能力を高め、自らの力を十分発揮して、個々の特性に応じた社会生活や職業生活に参加し得る人間を育成する。」ことと設定した。

知的な障害をはじめ、発達に差のある生徒たちが人間らしく生きる喜びをもって実社会へ参加するためには、身のまわりのことは自分の力で処理する身辺自立をはじめ、たくましい体力や集団参加のし方などの社会生活への適応力を育成することが必要である。

そこで、その方策として、生徒があらゆる場面で自主的に行動しようとする生活態度を身につけさせることをねらいとした生活単元学習や職業生活への適応力を養うことをねらいとした作業学習を中核として教育課程を編成している。

2 生徒の実態

高等部は、昭和56年度に設置されて2年目を経過しようとするところである。開設初年度の入学生は、本校中学部より5名、他の中学校特殊学級より5名の計10名、本年度の入学生は、中学部より8名、特殊学級より2名の計10名で、合計20名の生徒数である。

生徒の全体的傾向をみると、衣服の着脱はある程度できるが自らやろうとせず、まわりからの補助に頼る生徒から、自分なりの課題をみつけてとりくもうとする、いわゆる目的的行動のとれる生徒まで発達差の大きい集団である。

余暇のすごし方など学校内における日常生活の場面を観察してみると、教師の指示や示唆によって動くことが多かったり、お互いにかまひすぎたり、されるがままになっていたりして、自ら目的意識をもって活動することが少ない。また、1日の生活の流れにそって、自分たちが、「今、何をすればよいか」といった場に応じた状況判断もまずく、自分たちで自主的に協力し合いながら、工夫して活動しようとする場面もあまり見られず、すべての場面で、他に依存しがちな集団である。

3 研究の経過と視点

(1) 研究の経過

初年度（昭和56年度）は、高等部の教育はいかにあるべきかを模索しつつ、高等部段階での「動き」については、目的的に行動することであるととらえた。

そこで、われわれは、生徒に、めあてをもち自発的に活動することを期待して、「自ら判断し、行動する生徒の育成」をテーマとして研究・実践した。その中で、生徒たちが自主的に活動する学習場面を工夫することにより、リーダーを中心とする集団としての活動場面を多くみた。しかし、生徒一人ひとりが課題や目的をよく理解して、それをどのように解決していくか、即ち、手順や方法を考えて、その計画を自分たちなりに立て、自分たちで実行しようといった、自らめあて意識をもって行動するまでには至らなかった。

われわれは、この研究を通して、多様な生徒たちに、それぞれめあて意識をもたせ、活動させやすくするためには、一定期間経継して指導する場面を設定し、くり返し学習できる単元の構成が有効ではなかろうかということを認識した。

昭和57年度は、こうした昨年度の研究の反省に立って、「見通しをもち、すすんで活動する生徒の育成」をテーマとして研究にとりくんだ。

われわれは、生活単元学習をすすめるにあたって、これまでの「～について調べよう。」といった単なる知識や技能中心型の学習を反省し、生徒の体を通した実際体験の中で、生徒が主体になってすすめる学習活動を重視して指導計画を作成し、実践を積んできた。

(2) 「見通しをもち、すすんで活動する」ことのとらえ方

人間は、誰でも未知の課題に対しては、「どうすればよいだろうか。」といった不安感をいだいたり、「むづかしい。できそうにない。」という意識を生み、消極的な態度をとりやすい。反面、すでに経験したことについては、「やったことがある。」「自分にもできそうだ。」「やってみたい。」といった興味・関心や欲求が土台となって、好んでとりかかろうとする。

生徒たちがすすんで活動するためには、このように、これからやろうとする課題に興味や関心をもつことが必要である。また、活動を通して、集団の中で互いに認め合うことによって「自分にもできる」といった自信をもたせ、活動への動機づけを図ることが大切である。この自信が、「またやってみたい。」「こんどもがんばるぞ。」という意欲をもやし、次の新しい活動への興味・関心や欲求となってふくらんでいくのではなかろうか。

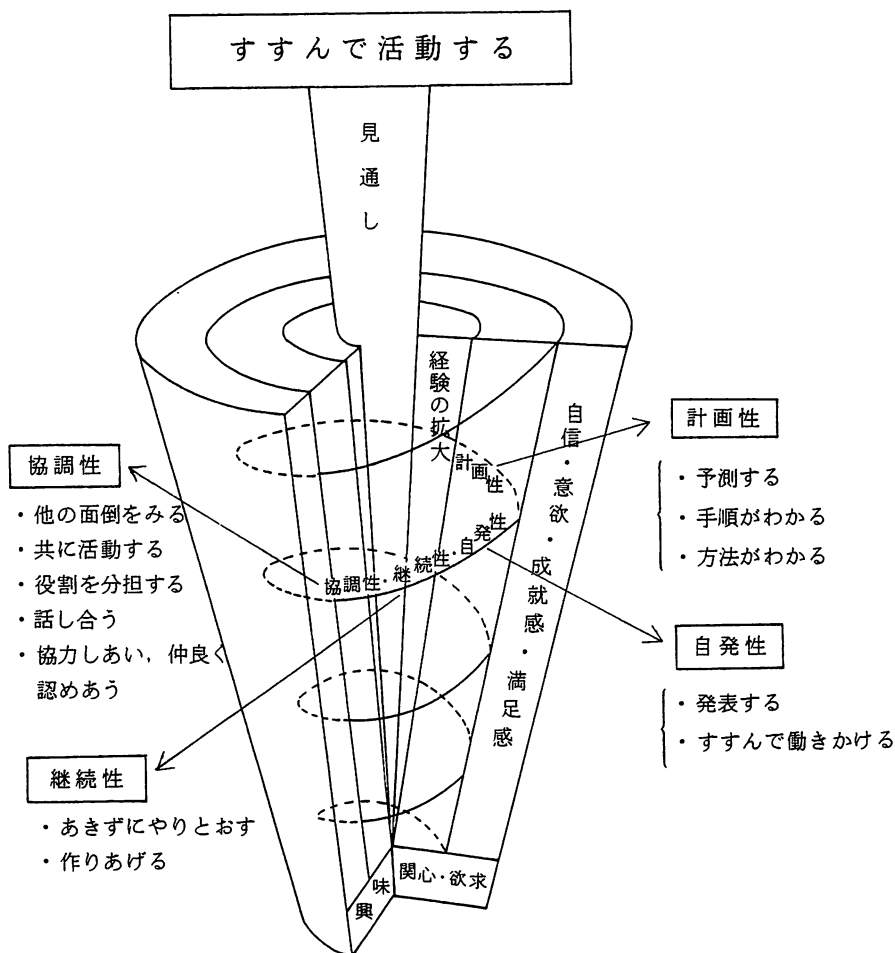
さらに、生徒に、活動を自らのものとしてとらえさせるためには、教師の指示を最少限にして、生徒なりに問題をみつけたり、互いに教え合ったりして、自らの力で活動させることが大切ではないかと考える。

われわれが、「見通し」について、生徒に期待していることは、「やったことがある。」という興味を手がかりにして「自分に何ができるか。」という活動への予測をたてたり、「何をどのようにすればよいか。」という手順や方法がわかることであるととらえている。

以上のようなことから、合科・統合された生活単元学習の中で、過去の経験の拡大・探化を図り、見通しをもって、生徒たちなりに計画をたて、実践し、反省する学習活動を習慣化して、自ら活動する態度を定着させたい。そこで、生徒に過去の経験を思いうかべさせ、新しい活動について予測させやすくするための手だてとして、視聴覚機器の工夫、実際体験活動のあり方などに視点をあてて研究をすすめることにした。

さらに、こうした学習を通して自主的な生活態度を培う素地として、計画性、協調性、自発性、継続性に焦点をあて、学習活動の中では、例えば、計画性を培うものとして、予測する、手順がわかる、方法がわかるなどの要素を取り入れてパターン化することにより、めあてをもち、見通しをたてやすくした。

以上のような活動をくり返す中で、自分たちで計画をたてて活動できたという意識や自信が強まって、次の活動へ意欲をもって「すすんでとりくむ」態度も養っていきけるのではないかと考える。下の図は、これまでのべた「見通しをもちすすんで活動する」態度を身につけさせることにせまろうとする要約図である。



Ⅱ 実践1 「臨海学校」の指導を通して

この単元は6月末から7月にかけて、高等部会員で展開していった。ほとんどの生徒たちはこれまでに幾度か、キャンプ生活を経験してきているが、中にはまったく初めての経験という生徒もいる。単元展開の概略を第二次の活動に焦点をあてて以下に述べる。

1 単元について

(1) 単元の価値

高等部の生徒たちの日常生活は、衣、食、住のすべてにわたって周囲から世話をしてもらうことが多く、自分の力で仕事をやりぬく経験が少ないため、周囲に依存しがちになる。このような生徒たちに、自らやろうとする行動力を身につけさせるためには、実際的な生活場面において、体感的な経験を多く積ませることが有効であると考えられる。

臨海学校では、日常の家庭環境から離れて生活するので、周囲への依頼心を絶ち、最小限の自分のことは自分でやる必要性に迫らせ、自分で問題解決していかなければならない経験を与えることができる。また、生徒たちが、食事や睡眠、排泄といった基本的欲求を自分の力で充足したり、互いに役割を分担し友達と協力し合う中で日課や仕事をすすんで行ったり、自分自身で次の行動を考えて活動する自主性を育てたりすることができる。

生徒たちは、これまでに共同生活として単元「働く生活」の中で校内宿泊や農作業合宿を経験してきている。本単元では、これまでの生活経験を基にして、その生活経験相互の関連を図りながら、くり返し学習によって生徒なりに何をどうすればよいかの見通しを持たせ、自分たちで活動できる喜びや活動意欲を掘り起こしていくことができる。また、時期的にも生徒の興味、関心の深い自然環境を背景にしているので、解放感にひたらせ、精神的なリラックスを図ることができる。さらに仕事を細分化して能力に応じた活動をさせることもできる。

こうした活動を通して、一人ひとりに「自分にもできる」という自信を養うとともに、「他の人とかかわり」にも目を向けさせ、互いに助け合い協力し合う中で、自分たちの生活課題を他からの指示がなくても自分たちで解決しようとする行動力を培えると考えられる。

(2) 生徒の実態

1年生男子7名女子3名、2年生男子5名女子5名、計20名で構成されている。明るく大らかな性格で、ほとんどの生徒たちがグループや学部単位の活動に興味、関心を示し始めている。生徒たちの活動状況をみると、キャンプの生活の流れはよく理解していないようである。係の仕事や準備についてもよく覚えていず、見通しを持って計画的に仕事を進めることは困難である。また、自分の意見や希望を持てる者が少なく、他に左右されやすい、あるいは依存しやすい型の生徒が多い。仕事面では、ほとんどの生徒たちがよく協力し合い、仲良く仕事をしているが、自分の仕事以外の手伝いなどはよくできていない。

仕事上での根気強さはみられるものの、困難や障害にぶつかったとき、自ら乗り越えようとしたり、あきらめずに活動しようとしたりする態度面では根気強さに欠ける者が多い。

(3) 指導上の留意点

- ① 一人ひとりの生徒の実態を的確に把握して能力に応じた指導を行いたい。
 - 家庭との連携から家庭生活の実態を把握する。
 - 仕事の関連を図り、役割意識を持たせる。
- ② 意欲的な活動ができるような手だてを考えたい。
 - これまでのキャンプや農作業合宿等の場面を視聴覚教材で思い出させ、キャンプへの興味関心を高める。
 - 生徒たちのわずかな行動や動きの変化にも注視し、その都度賞賛の言葉をおくりたい。
 - 必要な用具等を事前に操作させることにより、キャンプへのイメージを高めさせる。
- ③ 協力してやりとげようとする活動を重視し、そのための手だてを工夫する。
 - 生徒たちの希望をできるだけとり入れたグループをつくり、その役割や仕事を考えさせ、グループ活動の場を多く設定したい。
 - 学部生徒会との関連を図りながら、学部全体で自主的に推進できる活動を考えさせる。
 - 助け合い、楽しみ合うキャンプ生活の過ごし方を場面を設定して考えさせる。

2 目 標

- 自然と親しむ共同生活を通して、互いに役割を分担し協力し合って活動する中で、責任を持ち、根気強く仕事をなしとげる態度を育てる。

3 指導計画（総時数40時間）

次	主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	時 間
一	1. 臨海学校の計画を立てる。 2. 臨海学校周辺の特色を調べる。 ○ 目的地までの交通機関、目的地の様子など。	(時) 4
二	3. 臨海学校での生活について話し合う。 ○ 生活グループの編成 ○ 約束や心得、必要な仕事など	5
三	4. しおりを作る。 5. 準備や練習をする。 ○ 健康状態の調査、用具や道具の準備、食事の献立調べ他 ○ テント設営、キャンプファイヤーの練習など。	11
四	6. 臨海学校に行く。	18
五	7. 臨海学校の反省をする。 ○ 使った用具や道具の後始末 ○ 反省会（行動面、態度面、情緒面）	2

4 指導の実際

臨海学校を間近にひかえて、準備や練習の学習活動の前段階として、生徒たちなりに「臨海学校での生活について話し合う」活動を以下のように展開し、考察を加える。

(1) 生活グループの編成

生活グループを編成する活動は、臨海学校におけるほとんどの活動が、このグループを中心にすすめられるため、生徒にとっては、興味深いことである。生徒たちは、これまでに8mmを利用して昨年の臨海学校の様子を思い出したり、今年の予定地である市来海岸の様子をVTRを利用して学習したりしている。「みんなで協力して、楽しい臨海学校を過ごす」ためのグループ編成は、生徒たちなりに臨海学校における生活の見通しをもたせて活動させるところにねらいがある。以下、本時の主な学習活動と生徒の反応を示し、見通しの面から考察してみたい。

主な学習活動と教師のでだて	生徒の主な反応
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">臨海学校での生活グループを4つに分ける</div> <ul style="list-style-type: none"> みんなで協力して、楽しい臨海学校を過ごすためのグループという目標を提示したうえで昨年の臨海学校や6月の農作業合宿などのグループを思い出させる。 発表された意見を参考にして、男女別にそれぞれグループ分けさせる。 無作為に、男女のグループを組み合わせて、協力して楽しい臨海学校がすごせるかどうか判断させる。 生徒の意見を尊重して、グループ編成をすすめていく。 	<p>「荷物を運ぶ仕事が多いから、まず力持ちを4人選ばばよいと思います」</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員そうだと賛成し、力のありそうな4人を選出した。 「力の弱い人も、それぞれのグループに入れるとよいと思います」 これも全員が賛成し、身辺処理その他に他からの援助を要するような4人を選ぶ。 「僕は、T・U君の面倒をみたいのでT・U君と一緒にがよいです」 「僕は、O・H君の面倒をみます」 「僕は、T・Tさんとは、意見がよくくいちがうのでグループをかえたほうがよいです」 「僕たちのグループは、しっかりした女子が多いのでかえたほうがよいです」 「K・K君の班は、1年生が多いのでかえたほうがよいです」 「でも、女子が2年だけだし、しっかりしているものでこれでよいと思います」

<考察>

我々は最初、生徒たちは過去のグループ編成の経験をもとにリーダーを選んでからメンバーを

選ぶのではないかと予想した。ところが、「荷物を運ぶ仕事が多いから、力持ちを選ぶ」という活動から始まった。このことは、昨年の臨海学校や、6月の農作業合宿などにおける活動内容から、海水浴やキャンプファイヤーなどのレクリエーション面よりも、たきぎや、テントなどの荷物運びという働く活動面により強い見通しを持っていたということがわかる。

メンバーを運ぶ過程では、「意見がくいちがうので変えたい」という自分本位の意見もあるが「力の弱い人も1人ずつ入れよう」という意見のように、助け合い協力し合うことの大切さを表現している意見が多い。このことは、みんなが楽しい臨海学校を過ごすためには、助け合い、協力し合うことが必要だという見通しを持っていることがわかる。

また、「力の弱い友達の面倒は僕がみよう」「しっかりした人が多いからかえよう」という意見などでは、お互いの特性を認めあい、判断した結果だと考えることもできる。

このように、生活グループの編成においては、臨海学校の生活を、力持ちを中心として、働く活動という見通しでとらえ、また、協力して楽しく過ごすためには、手助けの必要な友達もグループで一緒に活動していくことだという生徒なりの見通しを持っているといえる。

(2) 約束や心得を話し合って決める活動

本活動では、生徒たちが活動するための見通しを持ちやすいように、農作業合宿の経験に基づいて、「行き帰りのバスの中・歩くとき」「食事のとき」「水泳のとき・自由時間」「その他のテント村での約束」と、4つの具体的な場面に分けて考えさせることにした。また、各場面は、生活グループごとに分担させて話し合い活動をさせた。

以下、全体活動→グループ活動→全体活動と、主な活動例を示す。

① <全体活動>

主な学習活動と教師のてだて	生徒の主な反応
<div data-bbox="216 1250 565 1289" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">約束や心得を決める場面を選ぶ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの場面を設定して、めあてを持たせ、活動をしやすいとする。 ・ 班ごとに話し合いたい場面を決めさせる。 ・ 農作業合宿で良くできたことや家でやっていることを考えさせる。 ・ スター班の班長に、班員1人ひとりの意見を聞かせる。 ・ 場面を選んだ理由を発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ エース班は「行き帰りのバスの中・歩くとき」、イーグル班は「その他のテント村での約束」、コンドル班は「水泳のとき・自由時間」とすぐ決まる。 ・ スター班は、班員からなかなか意見が出ず決まらない。 ・ 「食事のときがいい」「テント村がいい」と、2つの意見が出る。 ・ 女子から、「家で家事の手伝いをしているので決めやすい」という意見が出る。 ・ 男子は、その意見により「食事のとき」に合意する。

<考察>

本活動は、班内で話し合い「〇〇の場面」を選ぶことで、約束や心得を決めようというめあて意識を持たせることにねらいをおいた。

エース・イーグル・コンドルの3つの班は、簡単に場面を選び出すことができた。それは、班員に同意の表情が見られたり「それでいい、それでいい」という声が出たことから、約束を決めることができるという見通しを持っていたからだと考えられる。しかし、スター班は、なかなか意見が出ないために、場面を決めることができなかった。一人ひとり「〇〇がいい」という意見を持っていたが、グループ内で自分の意見を積極的に述べるまでにはいたらなかったからである。そのため、「食事のとき」の場面を余儀なく選ぶことになった。

以上のことから、本活動によりほとんどの生徒がめあて意識を持つことができたと考える。このことは、農作業合宿の経験に基づいて、最初から場面を4つに分けて考えさせたために、一つ一つの場面に対して、どういう活動があるかという見通しを生徒たちがもちやすかったためである。スター班も、なぜその場面を選んだかということを考えさせて、具体的な場面の見通しを持たせたならば、班としての約束を決めたい場面が、もっと明確に出てきたのではないかと考える。

② <グループ活動> 例・コンドル班

主な学習活動と教師の手だて	生徒の主な反応
<div>水泳のときの約束を決める。</div> <ul style="list-style-type: none"> 前々時に調べた昨年のキャンプの様子や実地踏査のVTRで見た今年のキャンプ地の様子を思い起こさせる。 <div>自由時間の約束を決める。</div> <ul style="list-style-type: none"> 農作業合宿の自由時間で悪かったことがなかったか話し合わせる。 みんなから出た意見をもとに、今度の臨海学校でどうすればいいか考えさせる。 自由時間のすごし方について話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「準備体操をする」 「帽子をかぶる」 「先生の言うことを聞く」 「一人で泳がない」 「深い所に行かない」など ほとんどの生徒が発表 K・Sが班長をリコールされたことに関した意見が出る。 <ul style="list-style-type: none"> 「班長が自分かってなことをした」 「K・S君が1人で先に行った」 「自分かってなことをしない」 「グループで行動しよう」 「先生の言うことを守る」など 「海のそばだから貝を集めよう」 「海の生き物を調べよう」

<考察>

このグループは、「水泳のとき・自由時間」についての約束や心得を決めようというめあて意識をもって話し合いが進められた。

生徒たちから、「準備体操をする」「班長が自分かってなことをした」「貝を集めよう」などと活発に意見が出て、「水泳」「自由時間」ともすぐに約束を発表することができた。それは、8ミリで昨年の臨海学校の様子を思い出させたり、実地踏査のVTRで今年の臨海学校他について調べさせたりしたことで、今年の臨海学校についてのイメージを持つことができたからだと考える。また、一つの班が一つの場面を考えるようにしたことにより、めあてが明確になり、意見が活発に出たと考える。しかし、その意見に対して全員が認め合ったり話し合ったりして一つにまとめるというところまではいかなかった。もっと、一つ一つの意見を全員で話し合えるような手だてをする必要があったと考える。

以上のことから、視聴覚機器を利用して過去の経験を思い起こさせたり、場面を焦点化して与えたりすることは、新しい場面に対応させることが困難なこの生徒たちに、新しい場面へのイメージを持たせ活動を予測させるのに有効である。

③ <全体活動>

主な学習活動と教師のてだて	生徒の主な反応
<div data-bbox="185 1017 522 1054" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">決めた約束や心得を発表する。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表にメモを見ながら発表させる。 <div data-bbox="255 1174 455 1211" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;">スター班の発表。</div> <div data-bbox="255 1256 455 1293" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;">エース班の発表。</div> <div data-bbox="246 1373 466 1411" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;">イーグル班の発表。</div> <div data-bbox="246 1495 466 1532" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;">コンドル班の発表。</div> <div data-bbox="192 1585 529 1622" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;">各班の発表に対して質疑する。</div>	<p>〔行き帰りのバスの中・歩くとき〕の約束 「窓から顔を出さない」「右側を歩く」など</p> <p>〔テント村では〕の約束 「テントの中ではさわがない」 「朝のラジオ体操をまじめにやる」など</p> <p>〔食事のとき〕の約束 「あいさつやごちそうさまをする」「歯みがきをする」「皿はきれいに洗う」など</p> <p>〔水泳のとき・自由時間〕の約束 「準備体操をする」「目を洗う」 「グループで行動する」など 「グループで行動するのは、班が決まっているので、あたりまえじゃないですか」 「K・S君が農作業合宿で勝手だったので困った。」 「ああだった」「勝手なことをしてはいけない」など、他の班からも声があがる。</p>

<考察>

ここでは、臨海学校を楽しく過ごすために、自分たちで決めた約束を守るようにしようという意識を持たせることにねらいがある。

生徒たちが決めた約束は、どの班も活動する上に必要なことを決めている。これは、農作業合宿や校内宿泊において、約束を決める経験を積んできているため、臨海学校における具体的な活動場面を予測しやすかったのではないかと考える。また、コンドル班の「グループで行動する」ということは、K・Sが班を乱した行動でほとんどの者が困った経験から、他の班からも同調する反応が見え、集団で行動しようという意識が見られるようになった。さらに、他の班の発表に対しても、全員が臨海学校の約束としてすんなり受けとめたのは、場面ごとの発表によって、各場面の約束として焦点化されたためだと考える。

以上のことより、臨海学校の各場面における約束や心得を理解し、守ろうという意識が表われてきた。しかし、決められた約束や心得の内容については、まだおおまかなものである。もっと、一つ一つの約束について話し合いを深めていけば、活動の細かい部分までをも予測した意見が出てきたのではないかと考える。

(3) 必要な仕事を調べる活動の展開例

本活動にあたっては、あらかじめ学部生徒会の一環として生徒たちの実態に即した準備会をもった。その結果をもとに臨海学校に必要な仕事を調べ、自分たちに行える準備の仕事を話し合わせた。話し合いをすすめるにあたっては、キャンプに必要な具体物に触れさせながら、実際の活動場面に即した学習の展開がはかれるようにした。このことは、生徒たちの臨海学校に参加する意欲を高め、活動への見通しをもつことができたものとする。以下は、全体活動→班活動→全体活動と活動の流れにそった展開例である。

① <全体活動>

主な学習活動と教師のたて	生徒の主な反応
<div>役員会の報告を聞く</div> <ul style="list-style-type: none"> 学部生徒会の役員でカードの操作や発表などを分担させ、協力して報告させる。 あらかじめ話し合った調理、レクリエーション、生活、健康の4つの内容に分類させる。 各自の考えてきた仕事カードを使って掲示発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備会で話しあったもの テント張り、かまどづくり、ラジオ体操、放送器具、すいじ、たきぎあつめなど。 発表の中で出てきたもの 穴はり、買い物、荷物運び、トイレそうじ、水運び、荷づくり、食器あつめ、たいまつづくり、救急箱など 「穴はりは残飯をいれるためのものだ」 「畳ふきもあるよ」 「それは今度はテントだから必要ないよ」

臨海学校の仕事について話し合う

- ・ 協力してする仕事がたくさんあることに気づかせ発表させる。
- ・ ひとりでできる仕事，みんなで協力してできる仕事を考えさせる。

仕事の分類をする

- ・ キャンプ地での仕事と，行くまでの準備の仕事に分けさせる。
- ・ 意図的に，今やらなくてもよい仕事を提示することによって，キャンプ地での仕事と行くまでの仕事に分類させる。

「たきぎあつめをしようか」

- ・ 絵やスライドをみて，過去の失敗例を思い出させ，準備の大切さに気づかせる。

準備の仕事を選ぶ

- ・ どんな種類の仕事をしたいか，グループで話し合わせる。

「どうするね，早いもの勝ちかな？」

「スター班がレクリエーションをゆずってくれました。なかなかできないことだね」

コンドル班-----調 理

イーグル班-----レクリエーション

ス ター 班-----保 健

エース班-----生 活

準備の仕事をする

「今できることを班ごとにやってみよう」

「みんなと協力して，やりとげる必要があるよ」

「穴ほりは一人でできるよ」

「テントは必要だ」

「テントはだれと張るの？」

「〇〇さんとテント張りしようね」

- ・ テント張り，調理などたくさんあがる。

- ・ 目を輝かせて

「キャンプのときの仕事だ。今やらなくてもよい」

「たきぎあつめもキャンプの時の仕事だ」

「牟礼ヶ山登山で箸を忘れて困ったよね」

「だった，だった」

- ・ コンドル班がいち早く調理を決める。

- ・ レクリエーションに2つの班が希望する。

「ジャンケンだ」「くじびきがいい」

「早いもの勝ちだ」「ジャンケンやくじびきはよくないよ」

- ・ スター班が，自分たちは保健でもよいとひきさがる。

「うん．やろう，やろう」

<考察>

この生徒たちのほとんどは，自己表現の機会が与えられるととても喜び，体いっぱい表現しようとする。教師の明確な意図と適切な指導のもとに活動する場を設定すると，生徒たちなりにのびのびとめあてをもって活動できる。

全体活動では、まず、スライドや絵などの視聴覚教具や準備会の報告をもとに話し合わせたことにより、明確に過去の経験を思い出させることができた。生徒たちは、このことから臨海学校に必要な仕事として、食器あつめ、穴ほり、救急箱、たいまつづくりなどの仕事が考えられることに気づき、積極的に発表する態度を示した。

次に、テント張りの仕事を例にあげて、ひとりでやる仕事か、みんなでやった方がよい仕事の判断を迫り考えさせることにより、ほとんどの仕事は協力がしないとできないということに気づかせることができた。このことは、準備の仕事を選ぶ場面で、二つの班が「ジャンケンだ。」「くじびきだ。」「早いもの勝ちだ。」などと言いながら結局、一方がゆずることで解決したことからも協力の必要性が生徒なりに理解されているということがうかがえる。

「見通し」の視点からみた場合でも「穴ほりは残飯を入れるためのものだ。」「今度はテントだから畳ふきの仕事は必要ない。」「ごはんたきの仕事は、キャンプのときだ。今、やらなくてもよい。」などの発表にみられるように過去の経験から状況に応じて、いくつかの仕事への見通しや判断する姿もみられるようになった。しかし、その程度は低く、日常的習慣化にむすびつくものではない。

そこで、このような活動をくり返すことによって、その中から個々の実態に即し段階的にめやすを設定して、ひとつひとつ引き上げていくが必要になる。そのことから「自分たちで計画した臨海学校なのだ。」「できるだけ自分たちでやろう。」といった意欲や見通しがさらに培われていくと考える。

② <グループ活動> 例 エース班

主な学習活動と教師のでだて	生徒の主な反応
<div data-bbox="244 1152 458 1191" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">準備の仕事をえらぶ</div> <ul style="list-style-type: none"> 生活面を受け持ったエース班は、臨海学校に行くまでに準備する仕事として何があるかについて話し合わせる。 生活班の仕事としてテントの準備があることに示唆を与える。 「テントを張る時に道具が足りなかったら困るよね」 	<p>「水運びがあるよ」「荷物運びもある」 「茶わんをそろえる」 「それは調理の仕事だよ」など</p> <ul style="list-style-type: none"> 班長は、一人ひとりの意見を聞きながら話し合いを進めている。 教師の意図するテントのことについては、なかなか意見が出てこない。 <p>「そうだ、用具がそろっているかを調べてみたい」 「張る時に調べたら良いがね」</p>

<p>「来週みんなでテント張りの練習をする時に道具を調べてあるとみんなが喜ぶかもよ」</p> <p>「それではテントの中を確認してみようか」</p> <p>テントの用具の点検をする</p> <ul style="list-style-type: none"> • テント袋を開ける前に、大事なことは何かを考えさせる。 「すぐ開けるとどうなるかな？」 「そうだ、どんなにたたんであったか注意しながら出さないといけないよね」 • 教師があらかじめ入れておいた点検カードと用具を照合させ、数を確認させる。 • 点検活動は生徒たちの話し合いの中で分担作業を通して行わせる。 • くいを大小に分け、本数を確認させる。 • 数えるのが難しい生徒には、教師と一緒に点検カードをもとに調べる。 <p>テントの後始末をする</p> <ul style="list-style-type: none"> • 点検カードにチェックして袋に入れてしまう。 	<p>「点検みたいなものだ」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3人でテントを取りに行き、持ってくる。 <p>「ああそうか、出した後、もとどおりしなきゃいけないよ」</p> <p>「そうだ、そうだ」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生徒たちは教師の前に集まり袋の中に何があるか興味を示し、はやく取り出そうとしている。 • ひとつずつ袋の中から取り出した。 • T・TとH・Tは、ポールを袋から取り出して組み合わせる。 • T・U、O・Hは、T・TとH・Tの仕事に関心を示して、自分の分担の仕事はわすれている。 • くいを大小に分けられるが、数が多く正確に数えられない。 • 班長は、点検のおそい班員に点検の仕方を示しながらカードにチェックしていく。 • 点検カードと照合しながら、テント、くい、ポール等順序よく袋に入れた。
---	--

<考察>

臨海学校において、生徒自らが活動する主要な場としてテント張りや調理がある。そこで、生活面を受けもったエース班の活動として、臨海学校の実際活動に至るまで、今やっておいたほうがよいと考えられる仕事はなにか話し合わせることにした。生徒たちの反応としては「水運び」「荷物運び」など昨年の経験から鮮明な印象に残る仕事をあげている。

そこで、事前の準備と現地の仕事を区別して考えさせることにした。テント設営の練習を間近にひかえた段階でテントの準備の必要なことを教師の側からなげかけてみたら生徒の興味としては、「テントをそろえたい」「調べてみたい」というような反応が出てきた。

本活動では生徒たちができる点検活動を中心に展開した。テント袋から取り出した物を点検カ

ードと照合しながら確認にあたった。生徒たちは関心を示し積極的に活動に参加し、柱やくいの
 大小の弁別やカードとの照合はよくできた。しかし、数を確認する活動では、本数の多いものに
 は抵抗が大きく教師の補助を要した。以上のことから、テント設営に必要な用具はわかったが、
 何がいくつあればよいかを考えて点検できるように絵カードなどを準備する手だてをするで能力
 の低い生徒も進んで活動できたのではないかと考える。

③ <全体活動>

主な学習活動と教師の手だて	生徒の主な反応
<ul style="list-style-type: none"> キャンプへのイメージをより鮮明にさせるために必要な具体物を使わせる。 <div data-bbox="262 642 648 682" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> スター班の活動について発表する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 応急手当てにどんな薬品類が必要であるかがわかりやすいように、班員でそろえた具体物で説明させる。 <p style="padding-left: 40px;">「ガーゼや綿はどんなときに使うの？」 「応急手当ての方法はどうなっていますか」</p> <div data-bbox="262 995 676 1034" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> コンドル班の活動について発表する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく、合理的な調理ができるために、班員で調べた調理用具の中からいくつかの具体物を提示させる。 <p style="padding-left: 40px;">「みんなに呼びかけることはないの？」</p> <div data-bbox="262 1256 680 1295" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> イーグル班の活動について発表する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> たいまつのおもしろみや、扱い方が理解しやすいように、具体物を提示させ、着火をさせる。 <div data-bbox="275 1648 666 1687" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> エース班の活動について発表する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 協力して、スムーズにテント張りができるよう、具体物をとおして発表させる。 	<p>〔救急箱の準備〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備した薬品類を救急箱より取り出して示す。「〇〇ぬってまたぬって……」と楽しそうな表情に皆が笑う。 <p style="padding-left: 40px;">「ケガをしたときに消毒などの手当てに使います」 「しおりの27ページをみてください」</p> <p>〔調理用具の準備〕</p> <ul style="list-style-type: none"> おはしやスプーンなど、みんなで集めた調理用具を示す。 <p style="padding-left: 40px;">「キャンプ地ではおいしく作って下さい」 「包丁で手を切らないようにして下さい」</p> <p>〔たいまつ準備〕</p> <ul style="list-style-type: none"> たいまつを示しその作り方を発表する。 <p style="padding-left: 40px;">「みんなの分も作りますので、皆さんも手伝って下さい」 「注意することは、人にむけない、下にむけない、ということです」</p> <ul style="list-style-type: none"> 着火に班員皆がやりたそう。他班はおっかなびっくりのようす。 <p style="padding-left: 40px;">「ワー」「よく燃えるね」</p> <p>〔テントの用具点検〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 開けるときに注意をし、用具を取り出す。 他班はのぞき込むように注視している。

<div data-bbox="171 323 487 362" data-label="Section-Header"> <p>次時の学習内容について知る</p> </div> <div data-bbox="185 368 637 490" data-label="Text"> <p>「いろいろな仕事があることがわかったね。次の時間は、みんなで手わけして実際に準備しましょう」</p> </div>	<div data-bbox="679 235 1145 401" data-label="Text"> <p>「点検カードでいくつあるかを調べます」 「形や大きさごとにわければ調べやすいです」 「早くテントを張りたいね」</p> </div>
--	--

<考察>

ここでの全体活動は、それぞれの班が準備の仕事のようすを報告しあうことで、一人ひとりが、これからの仕事に対して「まだ〇〇の仕事もある」「協力してやらなければならないんだ」というめあて意識をもつことにある。

グループ活動の報告会等は、グループ代表が発表するのが一般的であるが、本活動は一人の代表による発表でなく、分担しあってみんなで発表させ、一人ひとりが班を代表しているのだという意識をもたせるようにした。そして準備の仕事で用意したキャンプに必要な具体物を取りあげ、提示することで、キャンプに必要な用具へのイメージを高め、その取り扱い方や点検のしかたなどを具体的なかたちで視覚をとおして訴えた。

このようなことから、冗談も飛び出すようなふんいきの中で、生徒一人ひとりに臨海学校の学習に参加しているのだという共通の意識が生まれた。また、生徒たちが自分の分担に責任をはたすことで、つぎは友達と協力して仕事をやろうというまでに態度が高まっていき、そのために「〇〇の仕事を早くしたいね」「〇〇の仕事もある」といった意欲がみなぎるようになった。わずかではあるが、意欲の面からも、臨海学校において自分たちの手で活動できることへの見通しをもってきたと考える。

5 単元を終えて

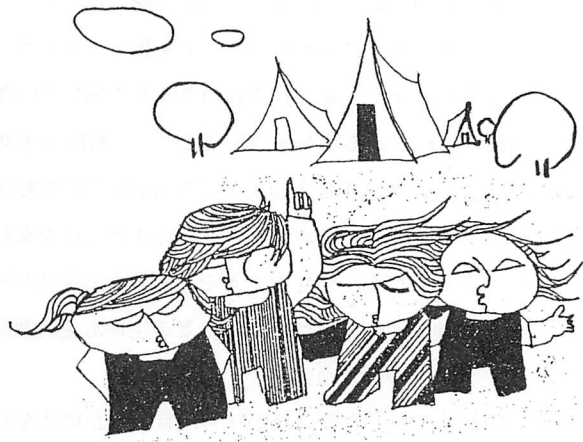
わたしたちは、これまで臨海学校を行うために必要な計画や準備の話し合いの場における活動の展開について考察してきた。その結果、ほとんどの生徒たちが意欲的に活動し、活動の喜びを味わったようである。これらの話し合い活動の後、実際の準備に全員でとりかかった。校庭でのテント張り実習ではエース班のメンバーが率先して点検カードを出し、袋からボールやクイを出して他のグループに教えていた。またキャンプ地に着いたとき、積み荷をすぐおろし一人で2個も3個もかついたり、重い荷は友達と分け合ったりしている



生徒が多かった。男子は片づけが終わるとたきぎ集めと飯ごう炊飯，女子はシチューやみそ汁作りにそれぞれ分担しながらできる仕事をみつけてやっていた。キャンプファイヤーのたきぎ集めなどもグループでまとまってしようとする姿がみられ，事前の話し合い活動が十分生かされているようであった。

わたしたちはこの「臨海学校」を設定するにあたり，単なる野外学習としてではなく，日常生活の一環（衣食住に関することと働くこと）として考え，農作業合宿や校内宿泊学習と関連を持たせることにし，さらに，生徒たちに任せられる仕事はできるだけ任せることにした。単元を終えて生徒たちの活動をふり返ってみると，先に述べたように「自分たちの臨海学校」「働く生活」という意識のもとにできるだけ自分たちの手でやっていこうとする態度がみられたように思う。それは「臨海学校」が自然の中で心の解放感を十分味わいながら活動できる生徒たちの興味のある単元であったこと，働く生活として単元が焦点化されていたこと，これまでの経験から活動内容への見通しを持ちやすかったためであると考ええる。即ち「今，何について話し合っているのか」「自分はどうすればよいのか」など，生徒たち自身がどのようにかわればよいかの予測が立てやすかったため，見通しを持った活動が意欲的に展開されたと考ええる。しかし，キャンプ生活につきもののテント張りの仕事がすぐ生徒たちの脳裏に思い浮かばなかったこと等から考えると，より具体的なイメージ化の手だてを考える必要がある。

以上のことから，生徒たち一人ひとりが見通しを持ってすすんで活動しようとするためには，活動内容のイメージをより具体的に鮮明に持たせること，そのためには過去の経験を十分に生かせる内容を選定すること，視聴覚機器の利用や教材教具を工夫することなどが必要であるといえよう。そして活動にあたっては，ごく最近の経験を基にして活動の予測を立てやすくする，これまでの経験の上にたって新しい経験をさせる，強烈な感動を受けたり，必要に迫ったりする経験をさせることなどが大事なことになる。これらのことが基となり，生徒たち一人ひとりに成就感や満足感を持たせることができ，自信や意欲となって次の活動への見通しを持たせやすくすることができ，すすんで活動しようとする自主性の芽が培えると考ええる。



生徒の声より（原文掲載）

キャンプのよういをした。
リュックサックにいれるけいこ
をしました。 7月16日 O・H

ゆうれいがこわかった。うみで
およいだのがたのしかった。

7月16日 O・H

キャンプ

市来海岸でてんとをはりました。

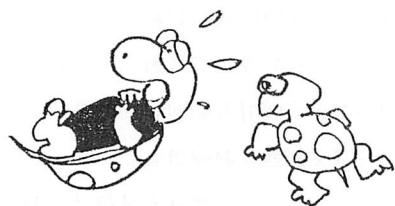
私は4はんでした。

水泳をしたり、すいかわりや
ごはんをはんどでたいたりして
たのしいでした。はなびもして
おもしろいでした。 F・A



キャンプの思い出

市来について、附属養護学校のは
たあげて。みんなで校歌をうたって
先生のはなしがあってから。グループに
わかれテントをはりました。エースとイ
ーグルスター、コンドルのグループもテ
ントはエースよりはやいでした。そのあ
とテントをはるのがすんで、夕ごはんの
じゅんぴをして、ごはんのあとふろから
いきもちで、帰ってきて、さいごにきも
だめしをしました。 K・K



はんごうの底を草でふいているようです

いちきキャンプ

（前略）

先生たちのはなしをきいた。こっきを
あげた。はわいてからテントをはりまし
た。たきぎをさがして、たくさんあつま
しました。ちょうりをしました。はんごう
の中でこめをみがきました。火をもやし
てごはんをたきました。はんごうのそこ
をくさでみがきました。すいえいもしま
した。 K・S

Ⅲ 実践 2 「職場の生活」の実践授業を通して

- 1 単元 職場の生活
- 2 期日 昭和57年10月27日(水)
- 3 場所 高等部教室
- 4 対象 高等部2年生男子5名 女子5名 計10名
- 5 単元について

- (1) 人はみな、それぞれの個性や能力、環境などいろいろな条件の中で社会生活を営んでいる。精神発達の遅滞している生徒たちも将来は実社会の一員としてそれぞれの能力に応じて何らかの役割を担い、社会的な連帯性を持つことが必要である。特に働くことを通して自らの個性を発揮し、社会生活参加への喜びを持ったり、生計を維持したりすることは社会的承認の欲求や自尊の欲求を満足させることができ、社会生活適応の重要な要因であると考えられる。

本校高等部の生徒たちは、中には働くことの意味もわからず、他からの援助を受けて活動する者もいるが、大部分の生徒たちは働く生活への興味は十分あり、意欲的である。しかし、どのようにして働けばよいか、人との応対をどのようにすればよいかなどの見通しを持ちにくいいため、すすんで活動しようとするのが少ない。そこで、職場実習や校内実習に臨んで働くことの大切さを再確認させるとともに、職場の生活への理解を深めることにより、見通しを持ってすすんで活動することができるようになると思われる。

生徒たちはこれまでに校内実習や農作業合宿、職場実習などを経験してきている。本単元ではこれらの過去の経験を生かしながら職場の生活への心構えをもたせ、実習への準備などを自分たちでさせることができる。このような経験を発展的にくり返す中で、さまざまな場に応じた人や物、環境などへの対応のしかたに気づかせ、実習職場の生活へ見通しをもって臨ませることができると思われる。

職場実習や校内実習は実社会との接点であり実際の生産的な仕事に従事するため、社会生活参加への喜びを持たせ、社会の一員としての自覚を促すことができる。そこで職場実習や校内実習と関連を持たせ、より現実的な場面に即した具体的な学習活動をさせることにより、働くことへの関心をいっそう高め、一人ひとりのめあてにそって、職場の生活における自分の行動の見通しを立てさせることができる。このことは、実習への意欲づけともなり、職場の生活への興味・関心をさらに高め、一人ひとりの仕事への理解を深めることになる。さらに、友達の実習職場についていろいろ知ることにより職業の種類や仕事内容などへの興味を持たせることができ、将来の進路を考える足がかりにもなる。また、計画を話し合わせたり、準備や壮行会などできるだけ生徒の手にゆだね、周囲の人々との協調の大事さを味わわせるとともに、生徒自らを中心にして活動させたりすることにより、やればできるという満足感や成就感を味わわせることができる。こうして生徒たちの情緒の安定を図りながら、自信と意欲を持たせ、見通しをもって活動させることは判断力を培う素地となり、自主性の芽が育っていくものと考えられる。

(2) 本学級の生徒たちは、これまでに校内実習や職場実習などはすでに経験してきている。最近、「また〇〇会社に行きたい。」「夏休みにお父さんの所で車を洗ったよ。」「仕事がきついからもう〇〇会社に行きたくない。」など話しており、働くことに目が向きつつある。また、校内実習や職場実習などで実際に経験した仕事を思い出したり、与えられた仕事をその生徒なりにやり通そうとする態度が見られたりするようになった。しかし、自分から手順を考えて仕事を進めたり、仕事の指示をあおいだりすることは難しい。更に、職場の人に自分からあいざつしたり、話しかけられたときの対応の仕方など対人関係の仕方が十分わからなかったりする者も多い。

氏名	I Q	実習の経験	計 画 性	協 調 性	自 発 性	備 考
	MA					
O・H	13	◦唐湊果樹園 ◦たえず補助してみかんの収穫や袋詰めをした。	◦具体的な活動の方法や手順がほとんどわからない。	◦補助を受けながら集団の中で動くとする態度が芽生えてきている。	◦簡単な自分の係活動は補助すればできる。	脳性小児マヒ
	2:2					
K・S	52	◦鹿児島ドライ ◦藤安醸造 ◦情緒不安定で職場やまわりの人に迷惑をかけた。	◦活動の内容が断片的にわかる。	◦みんなと一緒に活動しようとする意識はいくらもっているが、友達と協力して活動できない。	◦気分が向いたことには積極的に取り組もうとする。	情緒障害
	8:6					
S・K	37	◦唐湊果樹園 ◦鹿児島ドライ ◦みかんの収穫やウエスタミなど	◦助言を与える手順や方法を幾分考えつくことができる。	◦動作がのろく、マイペースであるため、みんなと一緒に行動できない。	◦求められると発表するが自分から話しかけることは少ない。	ダウン症
	6:4	能率は悪いが指示されてできた。				
M・K	60	◦福山食品 ◦山口製菓 ◦袋切りや菓子作りなど、積極的に取り組んだ。	◦一つの活動が終わると、次の活動への指示をあおぐことはできる。	◦リーダーシップがあり、他の人の面倒をみようとする。	◦自信のあることは、自分から進んでやろうとする。	甲状腺機能障害
	10:2					
M・Y	27	◦福山食品 ◦日産サニー ◦袋切りや洗車な	◦活動の方法や手順を理解することが難しい。	◦集団に参加しようという意識はあるが、友人関係に	◦積極的に発言はするが、支離滅裂なことが多	随膜炎
	4:9					

氏名	I Q	実習の経験	計 画 性	協 調 性	自 発 性	備 考
	MA					
		ど、たえず指示を要した。		片寄りがみられる。	い。	
U・K	41	<ul style="list-style-type: none"> 伊田食品 一平寿司 皿洗いや野菜の皮むきなど、指示されてできた。 	<ul style="list-style-type: none"> おおまかな手順がわかり、質問すると話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの手伝いをしたり、注意したりする活動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師に促されて活動に参加するが、すすんで活動することは少ない。 	
	6:8					
O・M	25	<ul style="list-style-type: none"> 伊田食品 福山食品 野菜の皮むき、袋切りなどをしたがきつい仕事から逃げようとする気持ちが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 単純な活動の方法や手順は時間をかけるとわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己中心的で、なかなか集団に参加できず、協力しようという態度がみられない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分ですということばは発するが、なかなか行動に移せない。 	甲状腺機能障害
	4:2					
T・T	40	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島ドライ 福山食品 ウエスタたみや袋切りなど一生懸命取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順を考えて活動することは難しく、確認を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなと一緒に活動しようとする態度がみられ、手伝いもできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示により一生懸命活動する。すすんで他の人にも働きかける。 	肥満傾向
	6:10					
H・Y	46	<ul style="list-style-type: none"> 伊田食品 野菜の皮むきや皿洗いなどを指示されてできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事の方法がわかり、指示された手順通りの準備ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰とでも仲よく活動でき、集団に参加する意欲もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を自覚し、すすんで果たそうとする。 	肥満傾向
	7:8					
Y・M	41	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島ドライ ウエスやおむつをたたんだが、集中力に欠けた。 	<ul style="list-style-type: none"> おおまかな手順がわかり活動できるが、おおざっぱである。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団に参加しようという意識はあるが、口出しが多く友だちの行動に干渉しがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> すすんで活動しようとするが長続きせず、注意されることが多い。 	かんし分娩 仮死産
	6:10					

(3) 指導上の留意点

以上のようなことから、この单元では次のようなことに留意して指導にあたりたい。

- 実習日誌やスライド、写真などによってこれまでの実習を思い出させ、ほめられたことや失敗したことをもとに一人ひとりの実習へのめあてをもたせる。
- 実際活動に即した場面構成をとおして一日の生活の流れや報告の仕方、あいさつの仕方などを学ばせる。
- 職場訪問や通勤訓練などの実際活動をとおして、職場での生活をわからせ実習への見通

しをもたせる。

- 。 グループ編成，役割分担，会場設営など，できる活動は生徒自身で運営させる。
- 。 生徒たちがやったことに対しては，できるだけ認め，賞賛を与え，自分たちにもできたという成就感や満足感を味わわせる。
- 。 実習は自分ひとりでできるものではないことに気づかせ，お世話になった人たちへすすんでお礼状を出させ感謝の気持ちをもたせる。
- 。 実習の反省会をもち，やり通したことへの喜びや満足感から，今後の学校生活や家庭生活への意欲をもたせる。

6. 目 標

- 。 実際の職場での働く心構えをもたせ，与えられた仕事を責任をもって果たそうとする意欲を高める。
- 。 実習をやり終えた喜びを味わわせるとともに，自分にもできるという自覚をもたせ，働くことへの関心を深める。

7. 指導計画（総時数 20 時間）

過 程	お も な 学 習 活 動	時 間
一 次	1. 職場実習について話し合う。 (1) 職場実習の心構えについて話し合う。 (2) 後期の実習計画をしらべる。 2. 必要な準備や練習をする。 (1) 必要なものをしらべる。 (2) 必要なことを練習する。	6
二 次	3. 職場訪問をする。 (1) 訪問の計画をたてる。 (2) 職場訪問をする。 4. 通勤訓練をする。	6 (本時 $\frac{1}{6}$)
三 次	<div>職場実習へ行く</div> 5. 実習の反省をする。 (1) 報告会の準備をする。 (2) 報告会を開く。 (3) お礼状を出す。	4
四 次	6. 校内実習について話し合う。 (1) 計画をたてる。 (2) 準備をする。	4

過 程	お も な 学 習 活 動	時 間
四 次	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">校内実習をする。</div> 7. 校内実習の反省をする。	

8. 本 時

(1) 目 標

- 自分の友だちの職場実習先の位置関係がわかり、職場訪問の順路を決めることができる。
- 職場訪問のときに、気をつけることを話し合うことにより、職場実習への心構えをもつことができる。

個人目標

氏 名	性別	目 標
O・H	男	◦ 話し合いの様子がある程度わかり、言語や動作の介助を受けながら、は ずかしがらずに活動できる。
K・S	男	◦ 実習職場の位置関係がわかり、遠い近いの区別をつけながら訪問の順番 に関心をもつようになる。
S・K	男	◦ 自分の実習職場の位置がわかる。前期の実習の経験を思いおこして、会 社で必要な対応のし方がわかる。
M・K	男	◦ 絵地図をもとに、実習職場の位置や距離などを相対的に見て、訪問の順 路を考えることができる。
M・Y	男	◦ 自分の実習職場へ興味をもち、前期の実習でお世話になった人を思いお こして、必要な対応のし方を発表できる。
U・K	女	◦ 友だちの実習職場や訪問の順番がわかる。前期の実習でお世話になった 人への、あいさつのし方がわかる。
O・M	女	◦ 友だちの動作の模倣によって必要なことがわかり、発表できる。
T・T	女	◦ 自主的に話し合いに参加し、友だちと協力しながら場面に応じて行動で きる。
H・Y	女	◦ 自分の実習職場に関心をもち、話し合いにすすんで参加する。 ◦ 職場の人への対応のし方がわかり、恥ずかしがらずに表現できる。
Y・M	女	◦ 前期の実習でお世話になった人を思い出し、訪問のときの必要な対応の し方を発表できる。

(2) 指導にあたって

職場実習を間近にひかえた生徒たちは、前時までに、後期の職場実習の期間や実習先などについて学習しており、「今度の実習はがんばるぞ」「〇〇会社に早く行きたい」などと、職場実習への興味もわいてきている。

本時は、職場実習にそなえて、自分や友だちの実習職場はどのようなところか、どんな仕

事をするのか、職場にどう行ったらよいかなどを実際に調べるための職場訪問について生徒たちなりに計画をたてさせることをねらいとした学習である。

本学級は、前期の職場実習を経験した生徒が9名、校内実習1名であり、いずれも、前期に自分の経験したことを具体的に思いおこすことができるようである。

そこで、本時の指導にあたっては、生徒の過去の経験を足がかりにしながら、次の点に留意して、訪問の経路をどうするか、自分の実習先の人たちにどう対応したらよいかなどについて、自分たちで計画をたてていく喜びを味わわせるようにしたい。

- 実習先名のカードを個人ごとに準備し、個人の活動の場を設定して、一人ひとりの実習職場への関心を引き出す。
- 壁いっぱいの市内絵地図を掲げて、実習先の位置関係や訪問の順路に見通しがたてやすいようにする。
- 実際の職場のふんいきに近い場面構成により、個人またはグループごとに具体的な対応のし方などを動作化させ、すすんで考えたり、問題を見つけたりしやすいようにする。

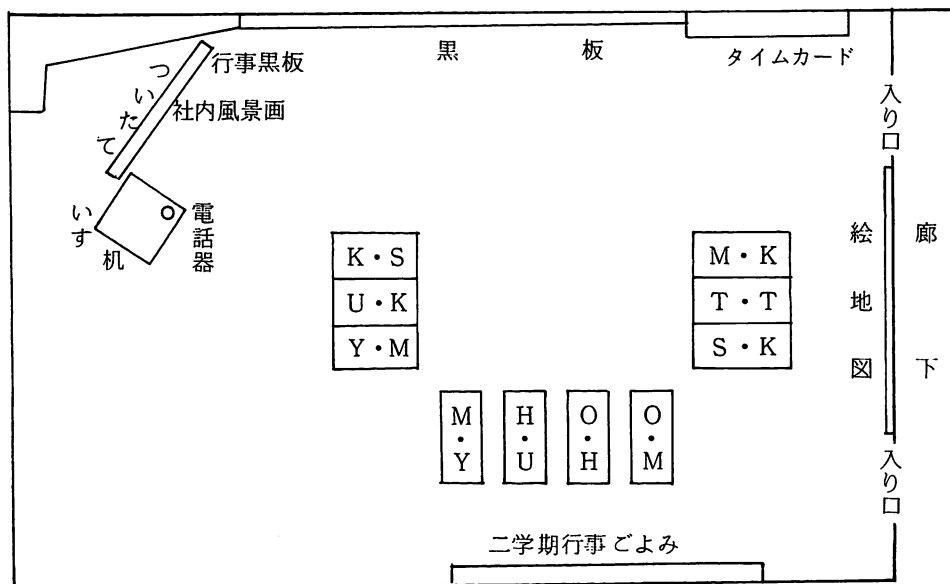
(3) 準備

- 実習職場カード ◦ 自宅の絵カード ◦ ついたて ◦ 行事黑板 ◦ 会社表札
- 電話器 ◦ 机、いす ◦ 肩書立て札 ◦ 場面絵 ◦ 短冊黑板 ◦ 市内絵地図

資 料

A群 M・K H・U Y・M
 B群 U・K T・T K・S S・K
 C群 O・M O・H M・Y

教室案内



(4) 実 際

過 程 (時間)	学 習 活 動			教 師 の て だ て	備 考
	A 群	B 群	C 群		
導 入 (10分)	1. 前時までの学習を思い出す。 (1) 実習職場を発表する。 ●大きな声で実習職場名、目標、決意などを発表する。			㊤ 自分の実習職場名カードを選び出し、職場名や目標、仕事内容などを発表させる。 ㊤ 実習日誌の提出を動作化させたり、声の大きさや態度などについて評価させる。	●実習先一覧表 ●職場名カード ●実習日誌 ●タイムカード
	●職場名カードを使って発表する。 (2) 実習日誌の提出をする。 ●あいさつや、家を出た時刻、遅刻した時の理由など簡単な応対をして、日誌の提出をする。				
	2. 学習のめあてをたしかめる。 職場訪問の計画をたてよう。 ●学習のめあてを発表する。			㊤ 学習のめあてを短冊黒板や行事ごよみで確認させるとともに、市内絵地図を提示して興味をさらに持たせる。 ㊤ 電停や学校など目印になるものを示して自分の家を探すめやすにさせる。 ㊤ 下校の道順をたどりながら自分の家を探させる。 ㊤ 帰る方向が一緒の友達に援助させて探させる。	●短冊黒板 ●行事ごよみ ●市内絵地図
	●職場訪問がいつあるか発表する。 (1) 絵地図に示してある自分の家を探す。 ●下校の道順をたどったり、家の近くの目印になるような電停や建物から自分の家を探す。				
	3. 訪問の順路を決める。 (1) 実習職場を探し出す。 ●通勤経路を簡単に説明しながら実習職場を地図の上を示す。			㊤㊤ 家庭で決めた通勤経路をたどらせて実習職場のだいたいの位置を理解させる。 ㊤ 校外学習で訪問した職場は、仕事内容を聞きながら思い出させる。 ㊤ 友達どうし教え合わせる。	
	●自分が行ったことのある職場を発表する。				

生徒のおもな動き（見る 聞く 話す 表情 行動 他）		
A 群	B 群	C 群
<ul style="list-style-type: none"> 自分の実習職場や仕事内容目標などを大きな声で発表する。 <p>(Y・M) 発表する生徒の方を向いてニコニコしながらよく聞いている。</p> <p>(H・U) 「家を出たのは、7時半、会社についたのは8時」と質問に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「声がはっきりしていた」「日誌は、両手で提出する」「相手の顔を見て話す」など自分なりの観点を持って評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の名前、実習職場、決意などを発表する。 <p>(K・S) S・Kの発表に、「100点満点」と言って賞賛する。 <ul style="list-style-type: none"> 他の生徒が、大きな声で発表すると拍手している。 <p>(T・T) 「家を出たのは6時半、帰り着くのも6時半です」とはっきり答える。</p> </p>	<p>(O・H) 自分の職場名カードを持って発表する。（養護商会）</p> <p>(M・Y) 「M・Yです。日産サニーに行きます。」</p> <p>(O・M) 「私はO・Mです。養護商会で働きます。」</p> <p>(O・M) 自分から社長役を希望して進み出る。</p> <p>(O・H) 実習日誌を持ってあいさつする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の発表に拍手する。
<p>(Y・M) まっ先に挙手して、「職場実習のまわる所の順番を決めます」と発表する。</p> <p>(M・K) 絵地図を見て「待ちました。アッ桜島フェリーと垂水フェリーだ」と興味を示す。</p> <p>(M・K, Y・M) 鹿児島大学、西鹿児島駅を探し出す。</p> <p>(H・U) 毎日利用している騎射場電停から自分の家を探しだす。</p> <p>(M・K, Y・M) 行きづまっている友達に教えたくてウズウズしている。</p> <p>(M・K) M・Yが逆方向へたどうろとするのを注意して「産業道路をわたって……」と探す。</p> <p>(M・K) T・Tがまちがった道をたどうろとすると「そっちじゃないよ」と注意し、角にラーメン屋があるよと教えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「いつですか」の間に「明日です」と答える。 <p>(U・K) 「順番、期日、時間」とカードを見ながらつぶやく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵地図を見て「ウァー、かっこいい」と歓声をあげる。 <p>(S・K) 自分の学校を探することができない。</p> <p>(U・K) 自分の学校を見つけ指さす。</p> <p>(K・S) 家の近くのTV局はわかるが、家を探しだせない。</p> <p>(S・K) 南州神社の名前に「アッで」と言って家を探しだす。</p> <p>(S・K) 「堅馬場で電車に乗って甲突川をわたって純心学園前でおりにて……」とたどっていく。</p> <p>(T・T) 「鹿児島駅前に乗って涙橋で降りて……」と職場を探すことができない。</p>	<p>(M・Y) 友達のあとについて「順番、計画……」と言っている。</p> <p>(O・H) 絵地図の近くに自分のイスを選び座る。</p> <p>(M・Y) 「谷山はどこかな」と自分の家の方向を探す。</p> <p>(M・Y) M・Kと同じ方向だということでM・Kと一緒に自分の家を探しだす。</p> <p>(O・H) T・Tと一緒に家を見つけピースのポーズをする。</p> <p>(M・Y) 「脇田の電停で降りて」とM・Kと一緒に実習職場を探す。</p> <p>(O・H) 「知っている。ドライだ、おむつたたみだ」と突然大きな声で言う。</p>

過 程 (時間)	学 習 活 動			教 師 の て だ て	備 考
	A 群	B 群	C 群		
展 開 (25分)	<div>(2) 職場訪問の順路を話し合う。<div>●自分なりに訪問したい順番を考え発表する。</div><div>●訪問したい職場を発表する。</div></div> <div>●職場の位置を考えて順番を決めるとよいことに気づく。</div> <div>(3) 職場相互の位置関係を考えて合理的な訪問の順路を決める。</div>			<div>㊤ 訪問したい職場や順路を自由に発表させて一つの順路を設定させる。</div> <div>㊤ 生徒が発表する順番にテープをはって訪問順路が一目でわかるようにする。</div> <div>㊤㊤ 生徒が設定した順路をテープでたどり、むだはないか考えさせる。</div> <div>㊤ 学校に近い職場、遠い職場に分けて考えさせる。</div> <div>㊤ 順路を決める時、意見が対立したら自分の主張する理由も発表させて全員に考えさせる。</div>	<div>順路テープ 市内絵地図</div> <div>番号札</div> <div>電話器</div>
	<div>4. 訪問する時の態度について話し合う。<div>●係の人が電話や話し中の時は、終わるまで待つことに気づく。</div><div>●大きな声ではっきりとあいさつや自己紹介をする。</div><div>●大きな声であいさつをする。</div></div> <div>●友達の発表で良かった点、悪かった点を発表する。</div>			<div>㊤ 訪問時の数場面を設定し動作化させることにより、訪問の態度を理解させる。</div> <div>㊤ 声の大きさ、答えかた、姿勢などを評価させる。</div>	
終 末 (5分)	<div>5. 学習のまとめをする。<div>●訪問する時の態度や注意することを発表する。</div><div>●みんなで決めた職場訪問の順路を発表する。</div><div>●最初や最後に訪問する職場がわかる。</div></div>			<div>㊤ 短冊黒板に書いた注意事項や絵地図に示された訪問順路などを利用して学習のまとめをさせる。</div>	<div>短冊黒板 市内絵地図</div>

生徒のおもな動き（見る 聞く 話す 表情 行動 他）		
A 群	B 群	C 群
<p>(Y・M)「次は、南州パンがいいです」と大声で発表する。</p> <p>(M・K)「次は福山食品、そして鹿児島ドライ」</p> <p>(Y・M)「鹿児島ドライは最後がいい」とM・Kの意見に反対する。</p> <p>○ M・Kの発言を中心にして訪問順を自由に大声で発表し合って一応の順路を決める。</p> <p>(M・K)絵地図を見て「ちょっと何か」と考え「テープが行ったりきたりしている。遠い方から行ったほうがよい」と言う。</p> <p>○ M・Kを中心に再度訪問順路を決めなおす。日産サニー→福山食品→鹿児島ドライ→……</p> <p>(Y・M)「いやです。鹿児島ドライは最後がいいです」</p> <p>(M・K)「Y・Mさんは勝手だよ」</p> <p>(Y・M)「M・K君も勝手だよ」と顔を赤くして言いをはるが、みんなの意見でしぶしぶ同意する。</p> <p>(H・U Y・M)電話が終わるまで待ってあいさつし、係の人(教師)の質問にははっきり答える。</p> <p>(H・U)「よかったです」と拍手する。</p> <p>○ 電話や話し中の時は、話しかけないことがわかっている。</p> <p>○ 「あいさつは大きな声ではっきりと」「電話や話し中の時は終わるまで待つ」と声を合わせて発表する。</p>	<p>(K・S)「サニーがいい」とO・Mの意見に賛成する。</p> <p>(U・K)「ドライがいいです。次は生協です……」「あれ？それでいいかな」などと身をのり出して大声で叫んでいる。</p> <p>(U・K) 順路テープを見て「難しだよ」と言う。</p> <p>(K・S S・K)「ドライ、サニー」とつぶやいている。</p> <p>○ M・Kの意見に「そうそうだ」と同意して「Y・Mさんは勝手だ」と口々に言う。</p> <p>(S・K) H・U、Y・Mと一緒にあいさつする。声が小さい。</p> <p>(U・K) S・Kのあいさつの時の声が小さかったと評価する。</p> <p>(K・S) M・K、M・Yの動作が終わった時よくできたと拍手する。</p> <p>○ 絵地図に示してある番号を見て、声をあわせて訪問の順路を発表する。</p>	<p>(O・M)「最初は日産サニーに行きたい」と発表する。</p> <p>(O・H M・Y)みんなが大声で順路を決めている間、絵地図のテープをじっと見ている。</p> <p>(O・M)「南州パン、県民生協」などとみんなが言った後からくり返し言っている。</p> <p>(O・M)「M・K君の方がいいです」</p> <p>(O・H)「よかったですか」と聞かれて good のポーズをする。</p> <p>(M・Y)電話が終わるのを待つ間ソワソワして落ち着かないがあいさつははっきりする。</p> <p>○ 「先生の自家用車でいきたい」「大学のマイクロバスがいい」などと楽しそうに話している。</p>

(5) 評価

みんなで職場訪問の順路を決めたり、気をつけることを話し合ったりできたか。

◦絵地図で実習職場を示すことができたか。

◦職場間の位置関係がわかったか。

◦訪問するときの態度を動作で発表できたか。

◦友達の動作発表を見て良かった点、悪かった点を発表できたか。

9. 考察

「すすんで活動する」ためには、「見通し」をもつことが必要であると考え、本時では小さな見通しをもって、生徒自らが中心となって活動することをねらって学習の発展がなされた。上述の場面として、①絵地図の上に自分の家を探す場面、②訪問の順路を決める場面、③訪問する時の態度について話し合う場面の大きく三つがあげられる。以下、それぞれの場面ごとに考察をのべる。

① 絵地図の上に自分の家を探す場面

ここでは、本時の学習をより興味深く確かなものとするための教具として、壁いっぱいの大きな市内絵地図を準備した。ビルや駅などをめやすとして、各自で自分の家を探し出そうというものである。絵地図が提示されると生徒たちの反応はきわめて早く、全員がいっせいに「ウェー」「待ってました」と歓声をあげた。これは、導入段階で前時の内容が動作化をとおして反復され、それをもとにした本時のめあて意識が鮮明にもたれ、期待も高かったためだと考えられる。駅や電停を探すめやすにすればよいというでだてより、A群のM・KやH・Uはすぐ自分の家を探し出し得意げに皆に発表することができた。また日頃ささいなことにもよく恥ずかしがるC群のO・Hは「学校があった」と大喜びした。そして友達の手助けにより自分の家を探し出せると「ピース、ピース」と友達にVサインを送った。自分の生活の中で最も親しく感じている学校や、自分の家を探し出せたことで関心が急速に高まっていったのであろう。

教師は、この場面において生徒たちが駅や電停、ビルなどをめやすとして自分の家をさがす方法がわかることを期待している。このような観点からみると、M・Kらのことがきっかけとなり他の生徒にも、「〇〇君のようにしたら自分でも探せる」という見通しをもたせたことは意義深い。こうした喜びはつぎの活動への動機づけとなってつながってゆく。

② 訪問の順路を決める場面

この場面では、まず絵地図の上に通勤路としての経路をたどることによって、自分たちの実習職場を示そうというものである。生徒たちは、自分の実習先についてすでに知らされており、そのほとんどが一学期に行われた実習職場と同一である。そのようなことから、通勤経路については、①の経験に加え、過去の経験や家庭での話し合いからB群のS・Kのように、途中の橋や建物のガイドをしながら実習職場を絵地図の上に示すことができた。ここではまた、M・Kなど友達がまちがいそうになると、「ちがうよ」と軌道修正を求めたり、O

・Hのように過去の職場訪問の記憶から、「行ったことがある、おむつたみだ」などの活動を呈した。また友達への声援や、成功への賞賛などもみられ、ほほえましい中に、共に活動する姿やすすんで働きかける態度がふくらんできている。

つぎに職場相互の位置関係から合理的な訪問の順を決める活動では、まずそれぞれがおもいおもいに自分が行きたい職場を発表して、一応の順路を設定した。そこでは教師が、生徒の設定した順路には問題がないかの問いかけをしたところ、順路を示したテープが複雑に交差していることにM・Kが気づき、「遠いところから順番を決めよう」と提案した。発言は、生徒なりに遠いところより順にまわった方がよいという見通し意識をもったものと思われる。これに対して、〇〇ドライが実習職場であるY・Mが執ように「〇〇ドライは最後がいいです」と主張するがこれは見通しに立った意見ではなく、単なる自分の職場への興味から「最後」にこだわったものとみられる。しかしこの生徒の場合、日頃他人追従的で自分の意見を明確にしないだけに、この生徒を納得させるだけの手だてがあればとおしまれる。

③ 訪問するときの態度について話し合う場面

この場面では、訪問態度を話し合った上で、模擬的に職場のようすを設定し、動作化させようとするものである。またここでは「話し中」「電話中」の場面でその状況に応じて判断する態度を求めた。その結果、教師の予想に反して、いずれの場合にも話や電話が終わるのを待ってあいさつすることができた。そこで、教師が話し中や電話中のA群のとった態度について問いかけたところ、A群の生徒たちから「話し中や電話中はいけない」などの答えが返ってきて他群の生徒たちにも同調する態度がみられた。

総じてここでの場面では、自分たちに与えられた自己表現の機会を体いっぱい表現しようとする意欲に満ち、職場訪問のとき訪問先でどのように対応すればよいかがわかり、実際活動への見通しをもつことができたようである。

以上のことを整理して考えてみると、「生徒自らを中心に活動させる」ためには、つぎのような状況を考慮する必要がある。小さな見通しの場面をつくり、それをかさねてゆくこと、臨場感あふれる場の設定や、関係ある具体物を効果的に与え活動内容のイメージを鮮明にさせること、過去の経験につなげた題材内容であること、自己表現の機会を多く与えささやかなつぶやきにも、ぬくもりを持って対処することなどである。

このことから、個々の実態に即しためあてを段階ごとに設定し、訪問の手順を話し合ったり対応の方法を考えたりして、生徒なりに計画を立て実施する学習活動をくり返すことにより、やればできるという成就感や、満足感を与えることができ、そのことが自信や意欲を持たせることになり、それはやがてつぎの活動への自主性の態度となってあらわれてゆくのではなかろうか。

Ⅳ ま と め

わたしたちは「動きに視点をあてた生活単元学習の展開」という統一テーマのもとに、生徒が自主的に行動しようとする生活力を培うことが高等部教育の課題であるにとらえ、昨年度は「自ら判断し、行動する生徒の育成」という視点から研究に取り組んできた。そして、集団の力を生かした自主的な行動力の育成について事例研究した。

本年度は、昨年の研究の成果をふまえながら、判断力や行動力を培う素地として、めあて意識を持ち、見通しにたって行動ができるようになることが大事であると考え、「見通しを持ち、すすんで活動する生徒の育成」という視点から研究をすすめる、合わせて指導計画を作成してきた。そうして、「臨海学校」や「職場の生活」での事例研究を進める中で、生徒たちの活動がよりスムーズに行われるためには、教材・教具の工夫、その効果的な提示や臨場感あふれる場の工夫など活動内容のイメージ化をより鮮明に強烈に図ることが大事であり、経験の拡大・深化を図っていくことが必要であるということが実証された。

わたしたちは、以上のことを実践研究する中で、わずかではあるが次のような生徒の変容をみることができた。

- (1) ほとんどの生徒たちが、指示がなくても場面に応じて集合したり、次の活動を考えて移動したりするなど、自分たちで行動するようになった。
- (2) リーダーを中心にして自分たちでやってみようという意識の芽生えがみられ、意欲的に活動するようになった。例えば、クリスマス会など、積極的に自分たちで運営していこうとする様子がみられた。準備や練習の計画の段階から生徒会役員を中心に互いに協力し合う姿がみられ、共に活動する喜びを味わっていた。
- (3) 「働く生活」という意識のもとに進んで働こうとする態度がみられるようになった。朝、登校してきた生徒たちはそれぞれ更衣を終えた後、全員がそろそろ下を掃いたり、ちりを捨てたり、お茶をいれたりするなど、できる仕事を自らみつけてしようとする自主的な活動がすっかり身についてきたようである。

このように生徒たちの日常生活の中でも見通しを持って進んで活動しようとする態度がみられるようになってきた。今後は、生徒たちが培いつつある意欲や自信をもとに、より具体的な見通しを積み重ねていくことによって、合理的な活動の手順などを理解させる学習のあり方を追究していきたい。また、一人ひとりの生徒をもっと理解するために実態把握の内容、方法等も研究していきたいと考えている。